



1ダートラより多く、ハンドルはワイドタイプを選択。K&N製をモディファイしたものだ。2もともとリアサス装備のフレーム後半をハードテイル化。フェンダー周りも凝った造形となっている。3エキゾーストはショートなデザインで雰囲気を盛り上げる。右シフト、右ブレーキという本物のレーサーさながらのレイアウトにも注目だ。



基本的に往年のダートラマシンをイメージするが、上品な美しさをも兼ね備える。

H-Dとレース、それはこの100年以上の歴史を振り返ると切っても切れない縁といえる。中でも、ダートトラック・レースに於いては当初からその実力を発揮していたのだが、そんなレーシング・シーンでのH-Dに想いを馳せて製作されたのが、ノスタルジー漂うこの美しき一台である。

'70年代のダートラ・レーサーをコンセプトに製作されたこのマシン。ベースはアイアンスポーツのXLH1000であるが、'74年式ストックのフレーム後半をハードテイル化し、

KRスタイルを模したものとされている。また搭載されるエンジンはシュアショットの手によりフルリビルドされ、サンダンスによるシリンダーのアーマーブレイティングやヘッドのポーティングでチューンアップ。見た目には違わず、ホットな走りを見せつける、まさに公道トラッカーとなっている。

ひたすら速く走ることのみが求められるレーシングマシン。相反するように思えるかもしれないが、やはりそこからは、チョッパーのルーツたる信念が強く、感じられる……。

文=アッキー加藤 text by AKI KATO 写真=渡辺まこと photographs by MAKOTO WATANABE
取材協力=シュアショット phone 043-445-0077 www.sureshot.jp

SURESHOT

1974 XLH1000

